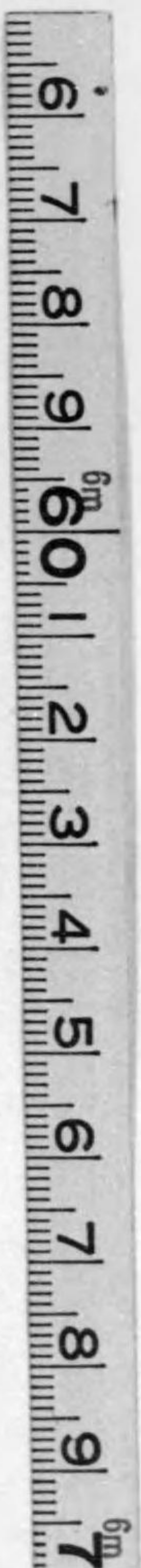


始

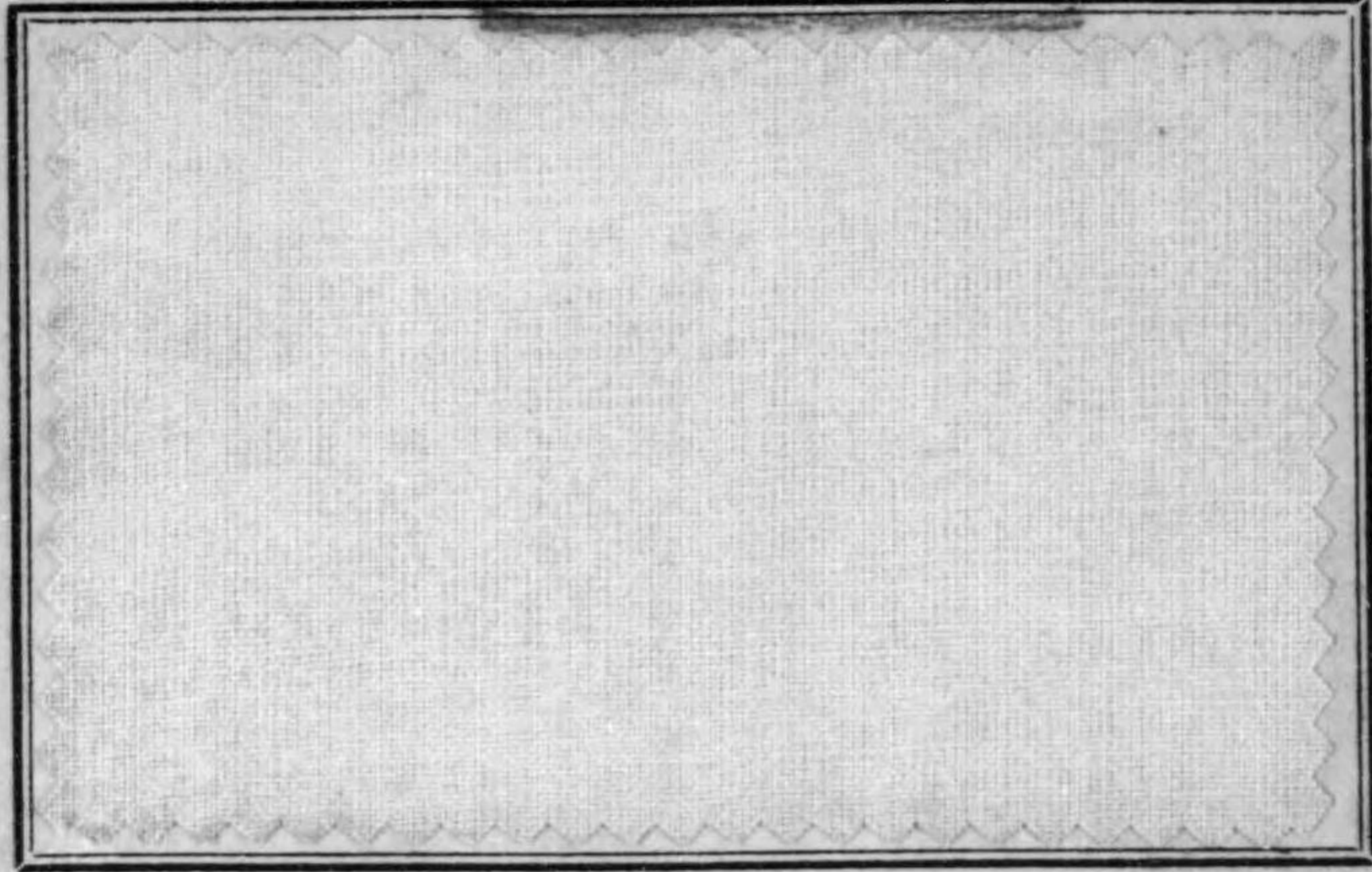


大正五年度

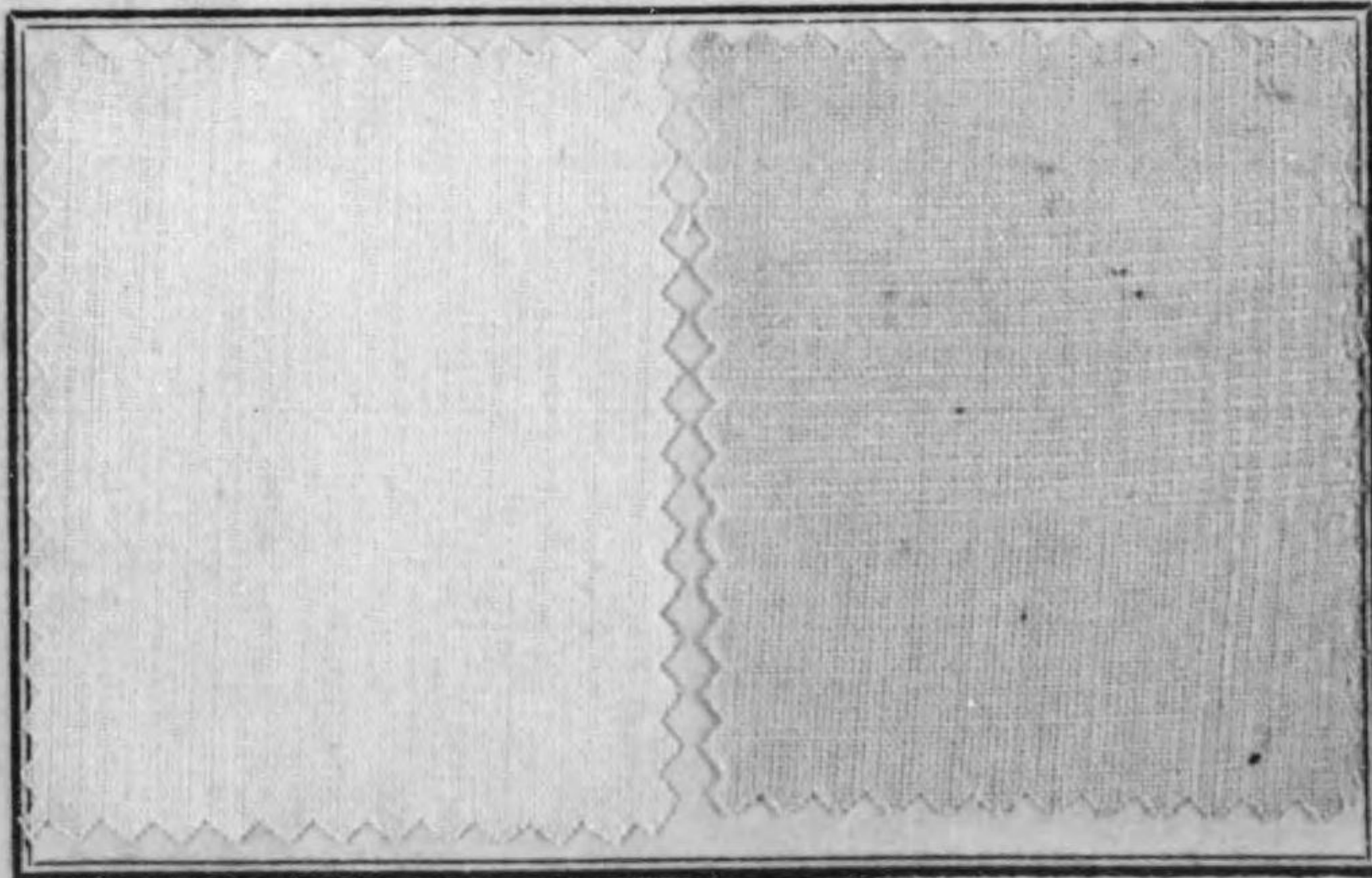
三重縣工業試驗場業務功程

第一號

14.2h - 35/

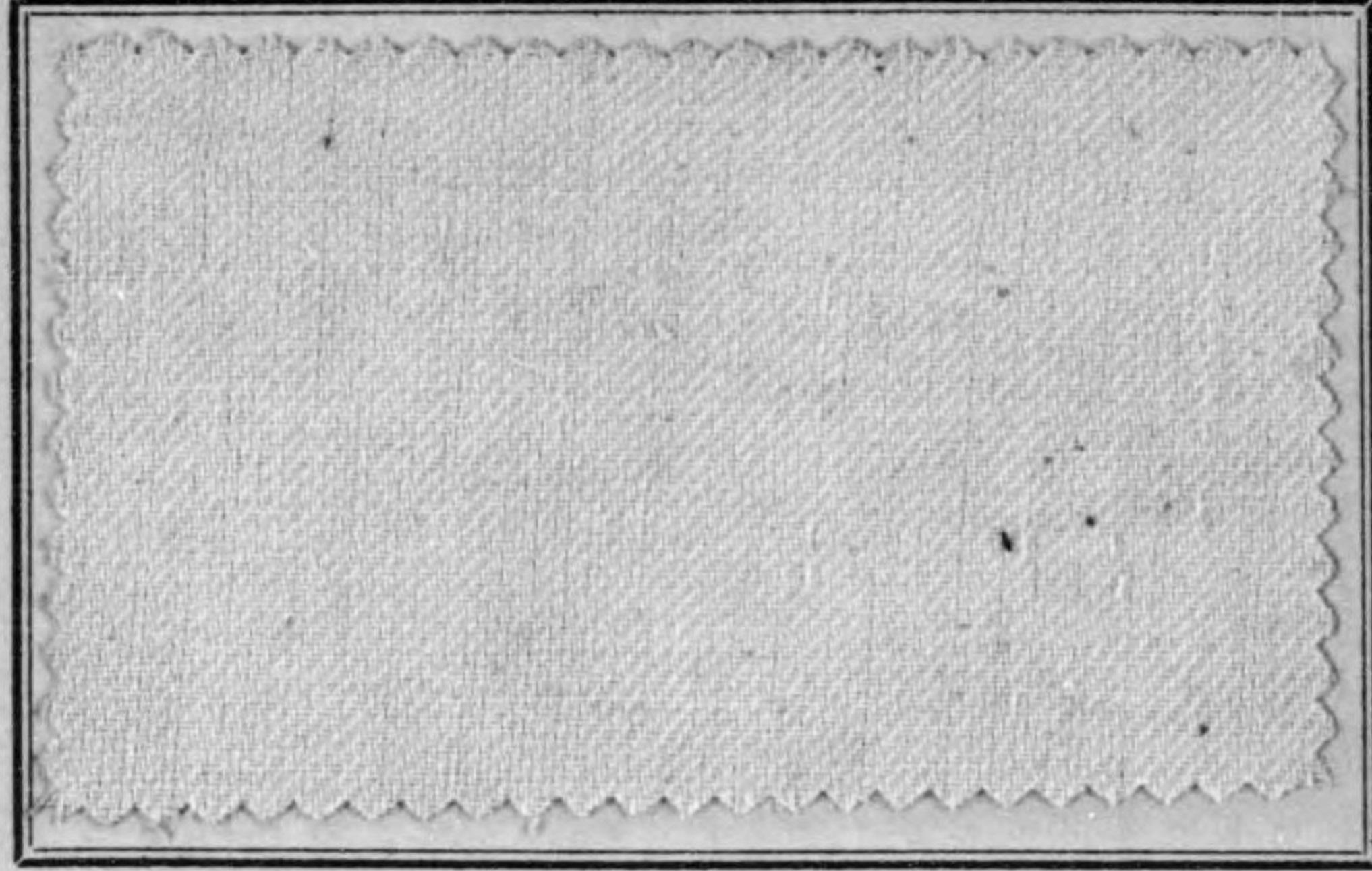


第二號

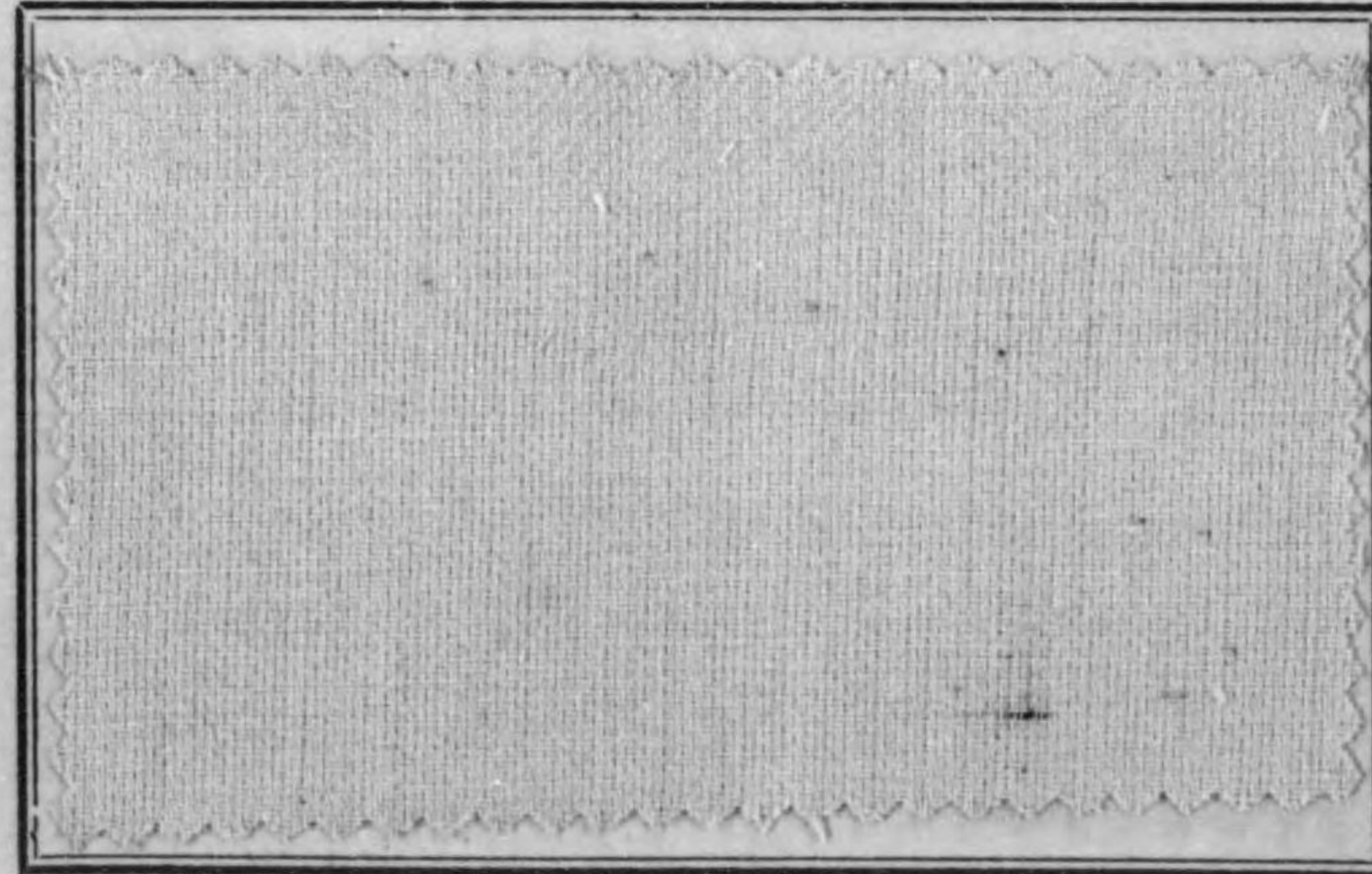


大正
6. 6. 19
内交

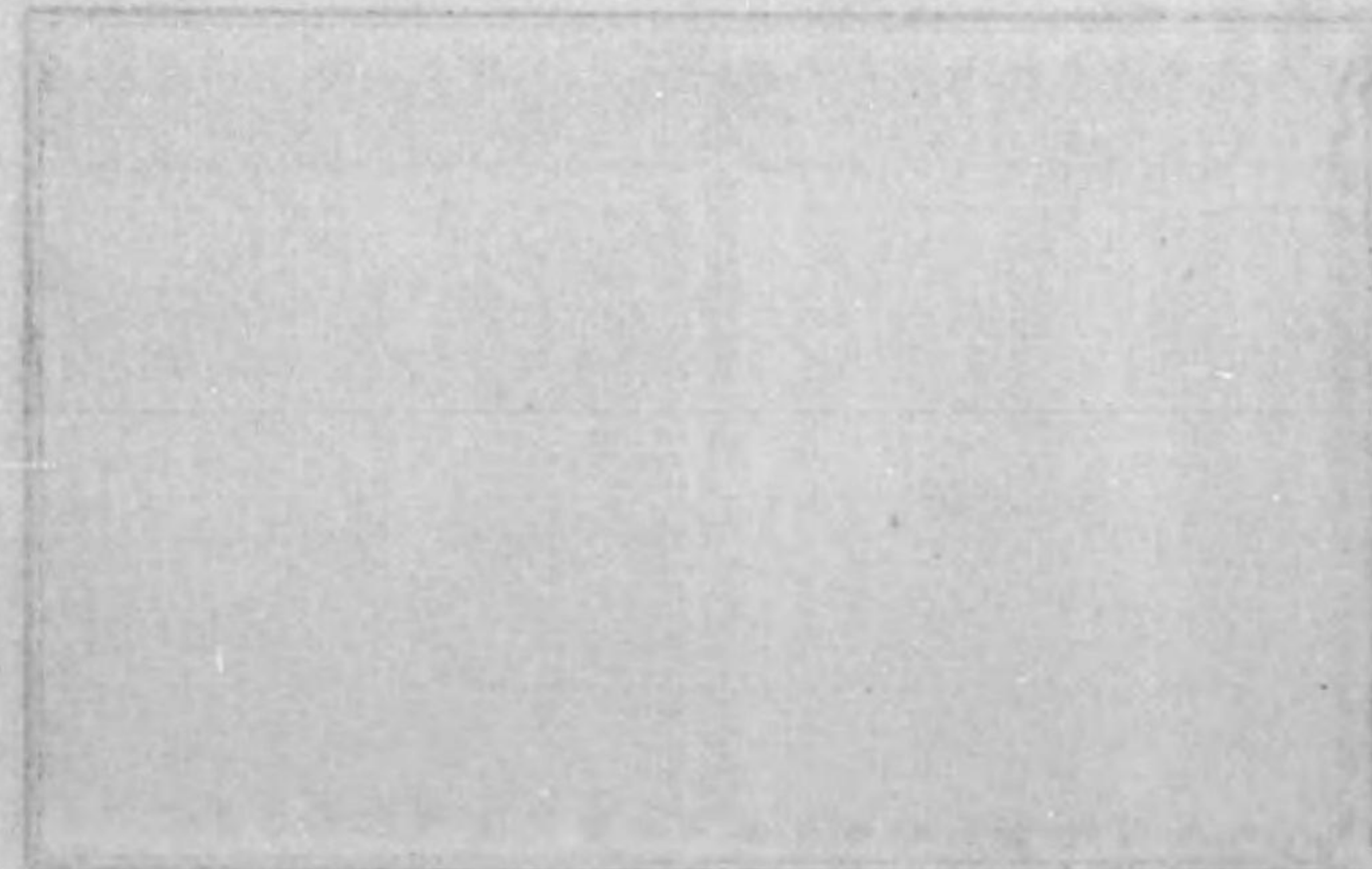
號 三 第



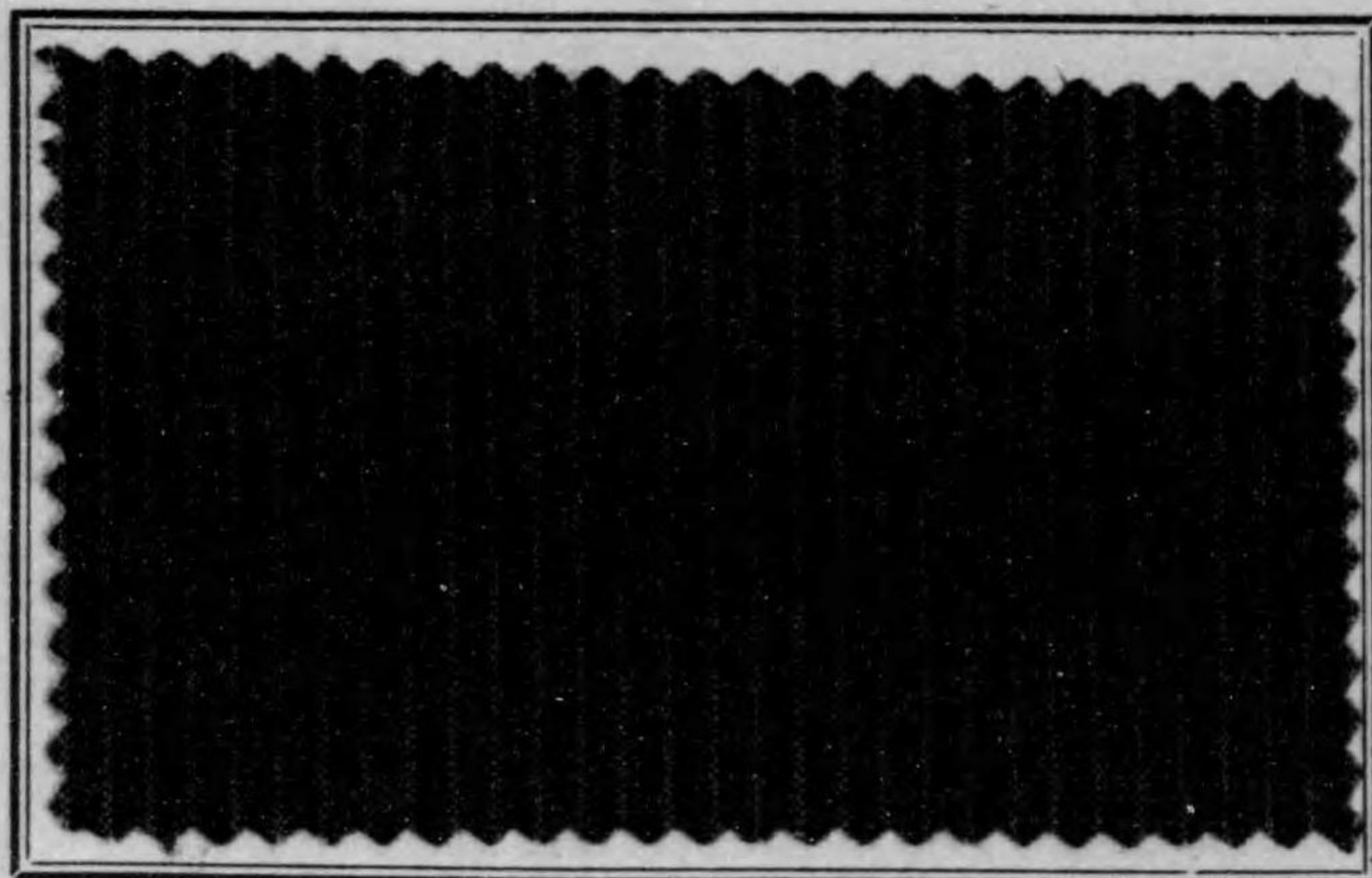
號 四 第



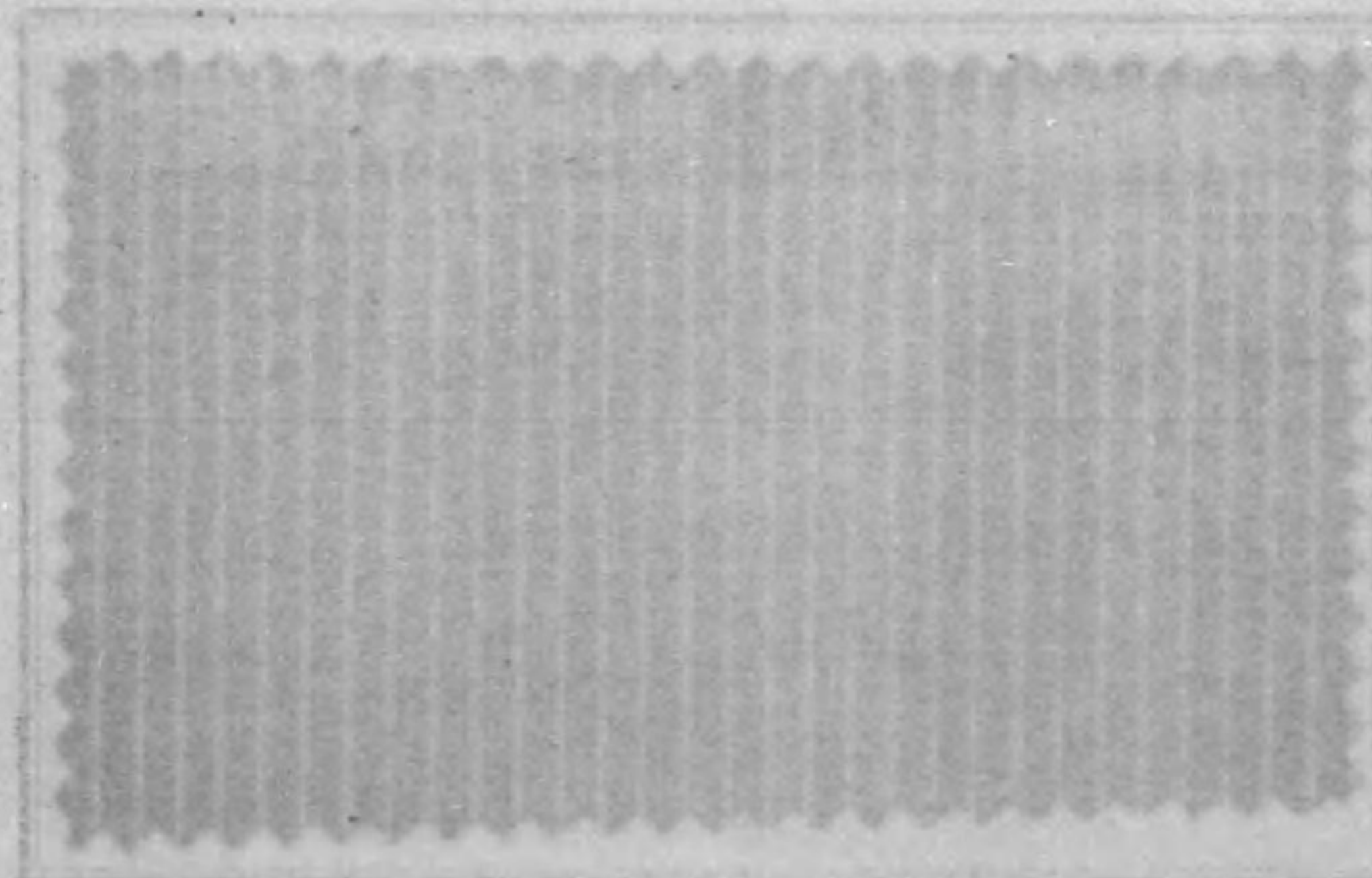
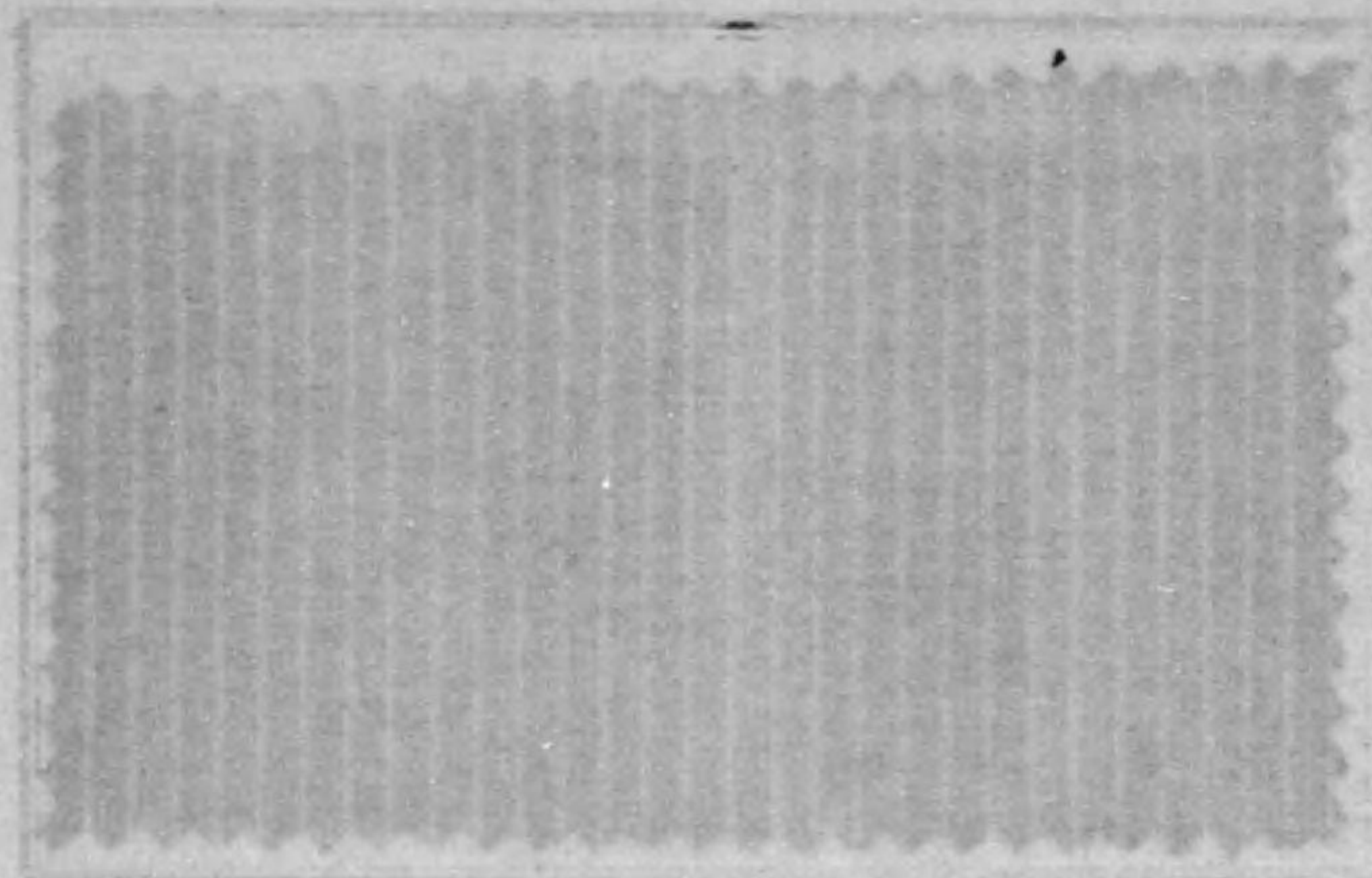
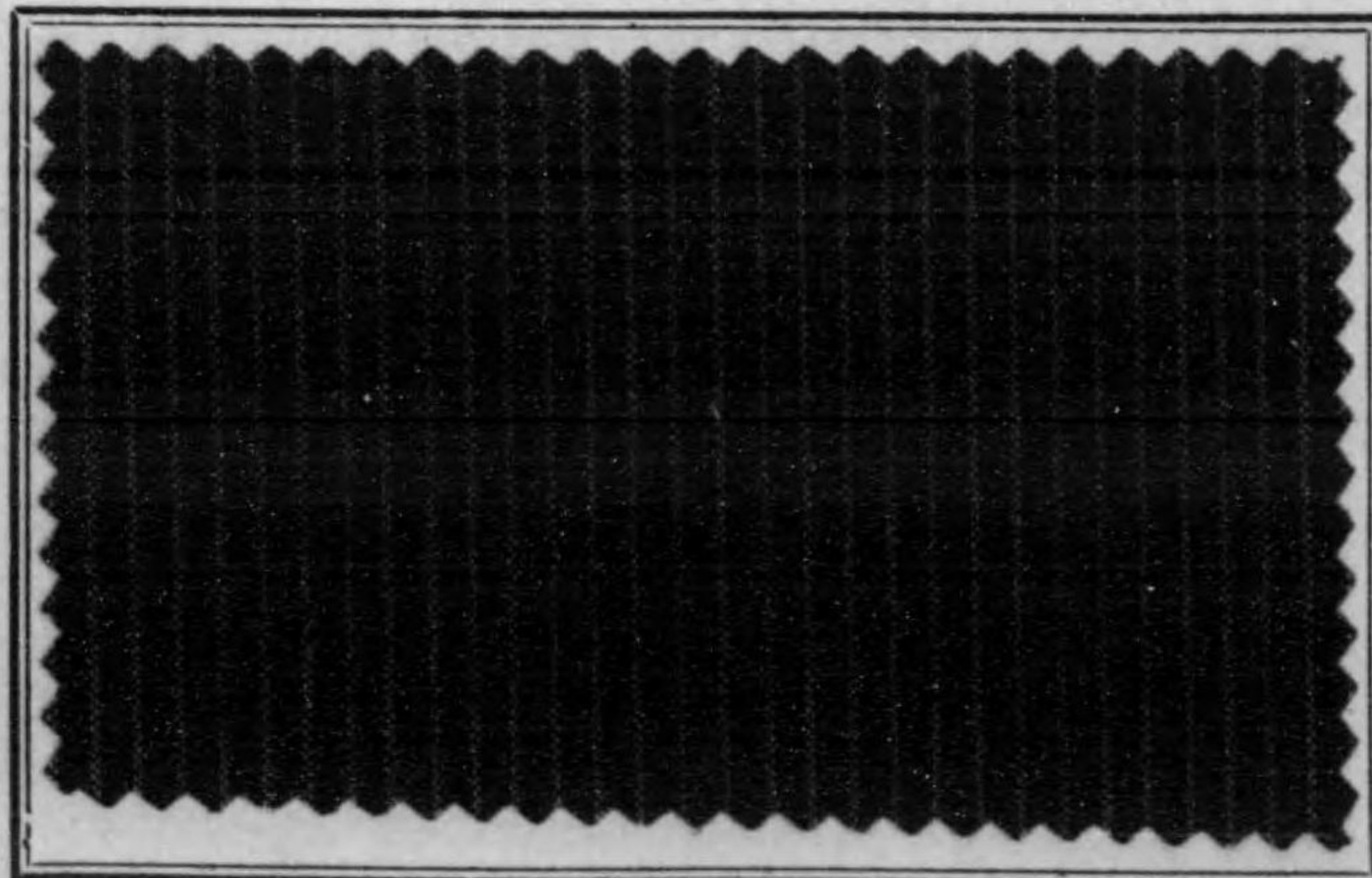
號 二 第



號 五 第



號 六 第



大正五年度業務功程

目次

第一章	染織部	一
第一	一般ノ經過	一
第二	試驗成績	二
第三	講習講話及實地指導	二一
第四	試驗製作及依頼加工	二四
第二章	圖案部	二七
第一	一般ノ經過	二七
第二	研究會、質疑應答、圖按調製	二八
第三章	分場各部	二九
第一	講習、講話	二九
第二	實地指導	二九
第三	分拆、試驗、鑑定	三〇

第四	質疑應答.....	三二
第五	漆器業指導.....	三二
第六	釀造業指導.....	三二
第四章	品評會出品審查.....	三三

大正五年度三重縣工業試驗場業務功程

本書ハ大正五年度ニ於ケル本場試驗成績ノ主要ナルモノ並ニ施設事業ニ就キ記述セルモノニシテ主トシテ前年度ノ例ニ據レリ

第一章 染織部

第一 一般ノ經過

染織部ニ於テ本年度内ニ施行セシ試驗事業其他ノ概要ヲ述ブレバ染料ニ就テハ内地製硫化染料ニ關シ第二回ノ染色試驗ヲナシ又硫化染料以外ノ内地製染料ニ就テモ染色試驗ヲ行ヒ其結果ヲ當業者ニ指示シテ參考ニ供シ、織物ニ關シテハ「ハンカチーフ」地及廣幅綾織物ノ試驗ヲ行ヒ其他各種織物ノ試験見本並購入標本等ヲ當業者ニ示シテ參考ニ供シタリ又前年度ニ引續キ染織ニ關スル各種ノ研究及調査事項、特許實用新案及對外貿易等ニ關スル事項ヲ印刷セル「工業彙報」ヲ數回發行シ以テ斯業ノ參考ニ資セリ、尙本年度ニ於テモ各地ニ出張シテ實地指導ヲ行ヒ斯業ノ發展ヲ助長セリ次ニ依頼加工作業ハ益々佳良ナル成績ヲ示シ殊ニ織物ノ整理作業ハ著シク依頼數量ヲ増加シ來リ頗ル良好ナル成績ヲ顯ハシタリ。

本年度ニ於テ新ニ購入設備ヒシ機械器具ノ主要ナルモノハ左ノ如クニシテ漸次試驗及作業上便利ヲ増

進セリ而シテ英國ニ注文セル自動織機ノミハ本年度内ニ到着スルニ至ラズ翌年度ニ到着ノ豫定ナリ

名	稱	個數	價	格	備	考
ノースロップ	自動織機	一	七五、〇〇〇		織物用	
水洗	機械	一	四八、〇〇〇		織物整理用	
刷掃	機械	一	三〇、〇〇〇		全	
綿絲	檢尺器	一	七〇、〇〇〇		試驗用	
ストツブ	ウオツチ	一	二六、〇〇〇		全	

第二 試驗成績

一 ハンカチーフ地製織試驗

綿ハンカチーフノ需要ハ年々増加シツ、アルモ大部分ハ之レヲ輸入ニ仰ギ從來本邦ニテ製造セラレシモノハ殆ンド劣等品ニ限レリ依テ本場ニ於テ輸入代用品ノ試織ヲナシ當業者ノ參考ニ供セリ

其一 (標本第一號)

原料 經緯糸共四十番單糸

密箴度 鯨一寸間四十五羽

經糸密度 一羽二本入

緯糸密度 鯨一寸間八十五本

組織 平織

整經 幅鯨一尺二寸二幅掛 長七十五丈〇尺

織上 幅鯨一尺一寸五分全 長七十丈〇尺(百ダース分)

量目五貫六百五十匁

織機 ハンカチーフ織機

其二 (標本第二號)

原料 經緯糸共四十番單糸

箴密度 鯨一寸間六十羽

經糸密度 一羽二本入

緯糸密度 鯨一寸間九十六本

組織 平織

整經 幅鯨一尺二寸二幅掛 長七十五丈〇尺

織上 幅鯨一尺一寸四分全 長六十九丈六尺(百ダース分) 量目六貫五百四十匁

織機 ハンカチーフ織機

以上二種共大体ニ於テ良好ナル成績ヲ收メタリ、尙逐次各種ノ製織ヲ試ミ參考ニ供セントス。

二、廣幅綾織製織試験

本織物ハ廣幅織物獎勵ノ資ニ供スベク試織シタルモノナリ。

其一 (標本第三號)

原料 經四十二番双撚糸 緯二十番單糸

綾密度 鯨一寸間四十六羽

經糸密度 一羽二本入

緯糸密度 鯨一寸間九十本

組織 $2\frac{1}{2}$ 綾織

整經 幅鯨二尺三寸八分 長六丈五尺

織上 幅鯨二尺二寸五分 長五丈八尺 量目一貫〇百二十匁

織機 ハツキング廣幅力織機

其二 (標本第四號)

原料 經六十番瓦斯双撚糸 緯三十番單糸

綾密度 鯨一寸間四十八羽

經糸密度 一羽二本入

緯糸密度 鯨一寸間九十五本

組織 $2\frac{1}{2}$ 綾織

整經 幅鯨二尺〇寸 長六丈五尺

織上 幅鯨一尺八寸八分 長五丈八尺 量目五百〇五匁

織機 ハツキング廣幅力織機

以上ノ内前者ハ薄手ノ服地用ニ供スル目的ニシテ後者ハ裏地用ニ供スルヲ目的トシ製織セルモノニシテ何レモ大体ニ於テ良好ナル成績ヲ得タリ。

三、縞木綿仕上試験

木試験ハ縞木綿ノ仕上方法ニ就キ試験セルモノニシテ從來當地方ニ於テ製織セラル、縞木綿ハ全部織下シノ儘ニテ販賣セラレ居レドモ之レニ適當ノ仕上ヲ施ス時ハ其外觀、手觸リ等ヲ良好ナラシメ從テ其賣行ヲ良好ナラシムベク時勢ノ要求モ亦未整理品ヲ喜バザル狀況ニアルヲ以テ之レガ適當ノ仕上方法ヲ研究スベク試験セルモノニシテ其成績次ノ如シ。

用布 織上幅、九寸五分 長サ二丈九尺五寸

經糸六十番瓦斯系三十番單糸 緯糸三十番單糸

鯨一寸間ニ於ケル密度

經糸九十七本、緯糸九十本

先ヅ綿布上ニ叢出スル細毛ヲ除去スル爲メ瓦斯燒機械ニ掛ケテ表裏ノ細毛ヲ燒去シ次ニ左記各種ノ方法ニ依リ仕上試験ヲ施行シタリ。

第一法 前記ノ綿布ヲ水中ニ通ジテ乾燥シ幅出機械ニ掛ケケ所要ノ幅出ヲ行ヒ布面ヲ整正ナラシム。

第二法 第一法ト同一ニシテ唯幅出機械ニ掛ケル代リニフェルト付整理機械ヲ通ス

第三法 毛燒キシタル綿布ヲ艶出機械(三本バウルペーバ%カレンダー)ニ一回通ジ次ニ水遙シヲ行ヒ上艶ヲ除去ス。

第四法 糊付乾燥機械ニテ次ノ割合ニテ製セル仕上糊ヲ施シ乾燥シタル後幅出機械ニテ幅出シヲ行ヒ布面ヲ整フ。

仕上糊ノ成分 甘藷澱粉 二〇

水 一〇〇〇

第五法 前法ト同一ノ仕上糊ヲ施シ乾燥シタル後艶出機械ニテ艶出ヲ行ヒ次ニ水通シヲ行ヒテ上艶ヲ除キ幅出機械ニテ所要ノ幅出ヲ行ヒ布面ヲ整正ナラシム。

第六法 第五法ト同様ニシテ仕上糊ノ成分ヲ變更セリ

仕上糊ノ成分

蒟蒻粉

五

水 一〇〇〇

以上各種ノ方法ニ依リ仕上ヲ施シタルモノヲ比較スル時ハ第六法ニ依リタルモノ最モ好成绩ヲ表ハシ織下シノ儘ノモノニ比シ其外觀及手觸リ等殆ンド品質ヲ一變セルノ觀アリ。

備考 標本第五號ハ織下シノ儘ノモノニシテ全第六號ハ前記第六法ニヨリ仕上ヲ施シタルモノナリ

四、第二回内地製硫化染料染色試験

本邦ニ於ケル染料製造業ハ戰亂ノ永續ニ伴ヒ漸次盛況ヲ呈スルニ至リ硫化染料、塩基性染料、酸性染料及アリザリン染料等ノ一部ヲ製出セラル、ニ至リ、就中硫化染料ノ黒及褐色染料ノ製出セラル、モノ數十種ニ及ベリ。外國製染料ノ輸入殆ンド杜絶シツ、アル今日ニ於テ是等染料ノ優劣ヲ鑑別シ其撰擇適用上ニ遺憾ナカラシムル爲メ既ニ前年度ニ於テ其數種ノ染料ニ就キ第一回ノ試験成績ヲ發表シタルガ其後新染料ノ製造續出シタルヨリ更ニ各地ヨリ數十種ノ染料ヲ蒐集シ第二回ノ試験ヲ施行シタリ。提出セラレタル染料ハ黒色四十六種褐色其他十八種ニシテ尙此他ニモ多數アル見込ナルモ試験着手期日迄ニ到着ヤザリシヲ以テ之レ等ハ更ニ其試験ヲ後日ニ期シタリ。

試験方法

先ヅ品質ノ良否即チ粉末狀態及不純夾雜物ノ存否等ヲ檢シ次ニ溶解度及異性染料ノ混否等ヲ試験シ次

ニ左ノ割合ヲ以テ綿糸ノ繼續染色試験ヲ行ヒタリ。

染料藥品	黒色		褐色		其他	
	初回浴	第二回浴	繼續浴	初回浴	第二回浴	繼續浴
染料	二〇%	一四%	一〇%	一〇%	七%	五%
硫化曹達	所要量	全上	全上	所要量	全上	全上
洗曹達	一〇%	五%	三%	五%	三%	二%
醋酸曹達	五〇%	二五%	一〇%	三〇%	一五%	五%

綿糸ハ鐘紡左二十手單糸ヲ使用シ凡テ沸騰浴ニテ三十分間宛三回繼續染色シタル後更ニ其殘液ニテ二回染色ヲ行ヒ其染色中白膜生成ノ程度、染着及殘液ノ狀態等ヲ檢シタリ。

次ニ熱湯、曹達、石鹼、醋酸、摩擦及日光等ニ對スル堅牢度ヲ試驗シタリ即チ

- 一、熱湯試驗可檢染系ニ之ト同質ノ白糸ヲ添附シタルモノヲ熱湯中ニテ五分間煮沸シ尙十分間其儘放置シタル後引上ケ其染系ノ如何ニ變色若クハ褪色セシカ並ニ白糸及液ノ着色程度ヲ比較シタリ。
- 二、曹達試驗 一%ノ洗曹達溶液ヲ作り前ノ熱湯試驗ト同様ノ方法ニヨリ試驗シタリ。
- 三、石鹼試驗 一%ノマルセル石鹼溶液中ニテ前同様試驗ヲ行ヒタリ。
- 四、醋酸試驗 一%ノ醋酸溶液ヲ作り此ノ中ニテ前同様ノ試驗ヲ行ヒタリ。

五、摩擦試驗 可檢染系ヲ摩擦試驗器ニ懸ケ此器ノ軸ニハ豫メ精練漂白シタル綿布ヲ纏附シ以テ脱剝シタル色ヲ該綿布ニ印セシメ其程度ヲ比較セリ。

六、日光試驗 最モ褪色シ易キ直接染料ヲ以テ染メタル綿糸ヲ標準色トナシ之ト共ニ日光ニ曝露シテ其變色及褪色ノ度ヲ比較シタリ此試驗ハ大正五年十一月三十日ヨリ大正六年二月二十四日ニ至ル間ニ於テ晴天二五〇時間曇天二六時間合計二七六時間日光ニ曝露シタルモノナリ。

以上ノ方法ニヨリ試驗シタル結果ヲ表示スレバ次ノ如シ。

表中品質ノ項「佳良」トアルハ品質優等ナルモノ「稍可」ハ精製充分ナラザルモノ「不良」ハ染料著シク吸濕性ニシテ精製不充分ナルモノヲ示シ又繼續染色ノ適否欄ニ於テ「最適」トアルハ其目的ニ最適當ナルヲ意味シ「適」等ハ順次前者ヨリモ劣ルコトヲ示ス又堅牢度ハ大別シテ一、最堅牢色、二、堅牢色、三、稍堅牢色、四、不堅牢色、五、最不堅牢色ノ五ニ區分シタリ。

備考 本試驗中黒色ハ純粹ノ黒色トシテ使用スル場合ヨリモ寧ロ主トシテ紺色ノ代用若クハ併用ノ場合ヲ目的トシテ施行シタルモノナリ。濃度ハ二〇ヲ以テ滿点トス、染料ハ先ヅ符號ヲ以テ表示セリ

符號	染料ニ對スル硫化曹達ノ割合		品質	色相	濃度	繼續染色ノ適否	染色堅牢度							
	熱湯	曹達					石鹼	醋酸	摩擦	日光				
い	七	割	稍	可	佳	四	適	良	一	二	二、五	一	一	一

も	キングブラツク B	津市八幡町 加藤長次郎	大阪市東區本町橋詰町 商行
の	ヒノデブラツク赤日	廣島縣芦品郡府中町	名古屋市西區菊井町二 荒川合名會社染料部
ね	東亞ブラツク 3 R	東亞化學染料製造所	大阪市東區北濱四丁目 岩井商行
け	K B ブラツク B	廣濱市材木町一 日本化學染料株式會社	大阪市西區江戶堀南通三 西村治兵衛貿易部
よ	コンピラブラツク R	香川縣琴平町 ジャパンカラース株式會社	岡山市車町 蜂谷金之助本店
い	ヤマモトブラツクブリウ R	大阪市北堀江 兼吉	大阪市東區北濱四丁目 岩井商行
わ	ヤマトブラツク A G	岡本縣兒島郡田ノ口村 與田銀工場染料製造部	大阪市芝區田町八ノ一 茂原商行
ぬ	オリエンタルブラツク B S	日本染料製造所	東京府住原郡世田谷村 東京化學工業株式會社
ス	K B ブラウン D D コンク エキストラ	廣濱市材木町一 日本化學染料株式會社	東京府住原郡世田谷村 東京化學工業株式會社
キ	モケンブラウン R 甲	東京府住原郡品川町 茂原染料製造合資會社	東京府住原郡世田谷村 東京化學工業株式會社
チ	ミヘダークグリーン	三重郡富洲原村 三重化學工業部	東京府住原郡世田谷村 東京化學工業株式會社

之ヲ要スルニ以上各種ノ染料ヲ通ジテ缺点トスル所ハ精製ノ充分ナラザル点ニシテ或ル種ノモノ、如キハ未ダ充分ニ化學變化ノ完了セザル如キモノアリ然レドモブラツク類ハ濃度ニ於テハ大体從來ノ輸入染料ニ優レルモノ多シ更ニ研究ト經驗トヲ積ムニ從ヒ一層優良ノ品ヲ製出シ得ルニ至ラム。

五、内地製染料染色試験

硫化染料以外ノ内地製各種染料近時漸ク製出セラル、モノ多ク既ニ酸性、塩基性、直接及媒染々料ノ一部ヲ市場ニ提供セラル、ニ至リシヨリ本場ニ於テハ之レガ染色試験ヲ施行シ當業者ノ參考ニ供セントシ染料見本ノ提出方ヲ各製造所ニ求メタル結果左記ノ通り酸性染料十四種塩基性染料四種、直接染料一種及アリザリン染料五種合計二十四種ノ提出ヲ見タリ。

染料名	所屬	百斤價格	製造所
シキシマブラウン	鹽基性	八〇〇	廣島市國泰寺村
シキシマエルロー	同	七〇〇	中國アニリン染料製造所
ザクロ印ブラウン	同	一、〇〇〇	和歌山市外中ノ島
ファストレッド A	酸性	九五〇	神戸市東川崎町一ノ一 鈴木商行
ナフトールエロー	同	九〇〇	同
ナフチラミンブラウン	同	九五〇	同
アシッドエルロー A	同	一三〇	東京府住原郡世田谷村 東京化學工業株式會社
同 R	同	七〇〇	同

オレンヂII	同	同	同	同	同	同	大阪府西成郡豊洲町
KBブリウ	同	同	同	同	同	同	東京府東區化學工業舎
KBオレンヂ	同	同	同	同	同	同	横濱市材木町
アシッドバイオレット	同	同	同	同	同	同	日本化學染料株式會社
ゴールデンエルロー	同	同	同	同	同	同	東京府北豊島郡瀧川町
ブリツアントアシッドブリウ	同	同	同	同	同	同	田端化學研究所
コンピラアシッドブリウスO	同	同	同	同	同	同	香川縣琴平町
コンピラタリサミン	同	同	同	同	同	同	同
アリザリンMBI	媒	直	同	同	同	同	福岡縣三池郡大牟田町
同 MYI	同	同	同	同	同	同	三井鑛山株式會社
アリザリンオレンヂ	同	同	同	同	同	同	同
同 マルーン	同	同	同	同	同	同	同
同 ブラウ	同	同	同	同	同	同	同
オレンヂII	酸	性	同	同	同	同	東京府南葛飾郡大島町
ファストレット	同	性	同	同	同	同	東京瓦斯株式會社精製所

メチルバイオレット	計 二十四種	同	同	同	同	同	同
而シテ酸性染料は絹、毛二種ノ材料ニ對シ〇、五%及3%ノ染料ヲ使用シテ普通酸性染料染法ニ依リ							
染色シ、又塩基性染料及直接染料ハ木綿及絹ノ二種ニ就キ各〇、五%及3%ノ染料ヲ使用シ普通ノ方							
法ニ從ヒ染色ヲ行ヒ次ニアリザリン染料ハ綿糸ノミヲ使用シアルミナ及クローム媒染ノ二法ニヨリ泥							
狀染料ハ二、五%及一五%粉狀ハ〇、五%及三%ヲ使用シ試染ヲ行ヒタリ而シテ其色相、堅牢度染着							
力、溶解程度等次表ノ如シ。							
シキシマブラウン	鹽	中國アニリン染料製造所	暗褐	三	三	三	三 木綿及毛染ニ適
シキシマエロー	同	同	暗赤黄	三	三	三	三 溶解不充分
ザタロ印ブラウン	同	大正化學工業所	赤褐	三	三	二	三 普通
メチルバイオレット	同	東京瓦斯株式會社精製所	美紫	三	四	三	四 木綿及絹染ニ適
ファストレット	酸	同	暗赤	三	三	三	二 絹染ニ適

オレンヂII	同	同	同	赤橙	三	四	三	三普通
フアストレッドA	同	同	鈴木商店	暗赤	三	四	四	二毛染に適
ナフトールエロト	同	同	同	黄	四	四	四	四同前
ナフチラミンブラウン	同	同	同	暗赤褐	二	四	三	二
アシッドエローA	同	同	東京化学工業株式会社	黄色	四	四	五	三染着力不充分
同 R	同	同	同	同	四	四	四	三普通
オレンヂII	同	同	東亞化学工藝舎	亦橙	三	四	四	三毛染ニ適
アシッドバイオレット	同	同	田端化研究所	暗紫	三	三	三	二絹染ニ適
ゴールデンエロー	同	同	同	暗黄	二	二	二	三染着力不充分
ブリアントアシッドブリウ	同	同	同	暗青	三	三	二	一絹染ニ適
KBブリウ	同	同	日本化学染料株式会社	青	二	三	三	二絹染ニ適
KBオレンヂ	同	同	全	帶赤橙	三	四	三	三
コンピラアシッドブリウ	同	同	ジャパンカラー株式会社	暗青	二	三	二	二
SO	同	同	同	暗黄	二	三	一	一
コンピラクリサミン	同	同	三井鑛山株式会社	同	一	一	一	一
アリザリンMBI	同	同	同	同	一	一	一	一

同 MI	同	同	同	同	一	一	一	一
アリザリンオレンヂ	同	同	同	同	二	二	三	三
同 マルーン	同	同	同	同	一	一	一	一
同 ブリウ	同	同	同	同	一	一	一	一

以上試験ノ成績ニ依レバ酸性染料ハ染料ノ溶解状態、染着力等概シテ良好ナル成績ヲ示シ塩基性染料及アリザリン染料ハ其成績酸性染料ニ比シ幾分劣レルノ觀アリ更ニ其製造方法ニ就キ經驗ト研究トヲ重ヌルニ於テハ輸入染料ト競争スル難キニアラザルベシト信ズ。

第三、講習講話及實地指導

一、講習講話

本年度ニ於テ施行セシ講習講話ハ合計八回ニシテ何レモ染織ニ關スルモノナリ、其開催場所、日數人員等ヲ示セバ左ノ如シ

染色法 一班	日數	人員	開催年月	開催場所
	三	五	大正六年三月	飯南郡大河内村

特種染料應用法	上	一	二〇	同年同月	河藝郡一身田町
全	上	一	一〇	同	上 同 郡榮村
機織ニ關スル注意	上	一	三	大正五年八月	津市
同	上	一	二〇	同	上 河藝郡榮村
同	上	一	二五	同	上 飯南郡松坂町
同	上	一	三〇	大正六年一月	津市
同	上	一	二五	同	上 飯南郡松坂町
計	上	一〇	二五		

二、實地指導
 實地指導ハ必要ニ應テ隨時場員ヲ各地ニ出張セシメ實地ニ就キ指導ヲ行ヘルモノニシテ其回数、日數等左ノ如シ

桑名郡	三	二〇	一度會郡	一	二
郡市	回数	日數	郡市	回数	日數

員辨郡	一	三	志摩郡	一	一〇
三重郡	一四	三	阿山郡	五	一〇
鈴鹿郡	二	二	名賀郡	一	二
河藝郡	一七	三〇	南牟婁郡	二	八
安濃郡	三	三	北牟婁郡	一	四
一志郡	四	六	津市	一	四
飯南郡	三	七	四日市市	八	二
多氣郡	一	二	宇治山田市	三	二〇
計	二二	一七			

三、質疑應答

本年度ニ於ケル質疑應答件數ハ合計七十八件ニシテ左ノ左シ。

精練漂白ニ關スル件	四	染織原料ニ關スル件	七
事項	件數	事項	件數

織物整理											加工別		
品	種	別	並	巾	廣	巾	計	品	種	別	加工別		
雜	セ	天	小	風	手	タ	晒	捺	染	織	瓦	耕	綿
類	ル	竺	倉	呂	拭	オ	木	染	色	色	斯	木	木
類	ヂ	木	服	敷	地	ル	綿	木	木	綿	縮	綿	綿
	ス	綿	地	地	地			綿	綿				
四六七					一六八	一、二七七	三七七	二、九〇八	五三三	四三九	一〇	四七	九九五
二九	四六〇	四四〇	九	三			五	四三					
四九六	四六〇	四四〇	九	三	一六八	一、二七七	四三	二、九〇八	一〇四	四三九	一〇	四七	九九五

加工別		品		種		別		數量	
品	種	別	數量	品	種	別	數量	品	種
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
五、〇四〇	九〇七	六、〇四七	二〇	四十二番燃絲	二〇	四十二番燃絲	二〇	四十二番燃絲	二〇
二〇	四十二番單絲	二〇	四十二番單絲	二〇	四十二番單絲	二〇	四十二番單絲	二〇	四十二番單絲
二〇	二十番單絲	二〇	二十番單絲	二〇	二十番單絲	二〇	二十番單絲	二〇	二十番單絲
二〇	十二番單絲	二〇	十二番單絲	二〇	十二番單絲	二〇	十二番單絲	二〇	十二番單絲
二〇	計	二〇	計	二〇	計	二〇	計	二〇	計

前表ノ如ク織物整理及綿絲燃絲等ハ前年度ニ比シ頗ル増加シ殊ニ燃絲機械ノ利用ヲ計ルモノ漸ク續出セントスルノ傾向アルハ本縣織物ノ發展上喜ブベキ現象ト云フベシ。

第二章 圖案部

第一 一般ノ經過

歐洲戰亂以來諸種工業ノ發展ト共ニ意匠圖案ノ必要益々急ニシテ縣下當業者本場ノ供給ヲ俟ツモノ愈々多キヲ加フヨリテ本場ハ本年度ヨリ更ニ一名ノ技術者ヲ増員シテ當業者ノ要求ニ應スルコトニ務メ

ツ、アリ獨リ工業者ノミナラズ商業者トシテモ該業發展ノ度ヲ増スニツレテ各人互ニ廣告及商品ノ陳列ニ多大ノ注意ヲ拂フモノ多ク隨テ之ガ研究ヲナスコト漸次急ヲ告グルニ至リ爲メニ本場ハ是等ノ研究ニ指導ニ愈々多忙ヲ極ム此他一般圖案志操ノ普及ト共ニ益々業務ノ多端ナルヲ致セリ

第一 研究會、質疑應答、圖按調製

一、研究會、講習、講話 一定ノ時日ニ特種品ノ生産地ニ於テ當業者ヲ會合セシメ專ラ意匠圖案ノ應用ニ其他ノ研究ヲナシ陶器ニ漆器ニ木工ニ織物染物ニ玩具ニ土産物ニ各種特産物ニツキ其地方ニ技師ヲ派遣シテ研究會ヲ開催シ各自ノ製品ヲ批評シ同時ニ參考書ヲ展示シテ適當ノ説明ヲナス
漆器陶磁器染型紙、及紙製品、織物其他一般ノ圖案ニ關シテハ前年ノ方法ヲ繼襲スル外本縣勸業陳別館ト共同シテ全館ニ於ケル參考品ニツキ特種標本ヲ縣下當業者ノ爲メニ研究會ヲ開催シ木製玩具ノ研究ノ如キハ時節柄大ニ當業者ノ注意ヲ惹キタリ又此研究會ニ關聯シテ縣下ヲ二部ニ分チ北部ハ津市ニ南部ハ宇治山田市ニ木工ニ關スル當業者ヲ召集シテ木象嵌製作法ノ講習會ヲ開催シタリ此ノ研究會ハ頗ル有功ニシテ漸次木製玩具ニツキ趣味ヲ喚起シ數名ノ熱心ナル斯業者ヲ出スニ至レリ以上ノ外實技ニ付専門家ヲ招聘シ圖案ト關聯シテ實地指導ヲナシタリ

二、質疑應答 二十件

三、圖案調製 四百五十件
四、標本配布 隨時標本トシテ陶磁器、漆器、木製品、金屬器等ノ圖案ヲ印刷ニ付シ之ヲ當業者ニ配布シテ參考ニ資ス

第三章 分場各部

第一 講習、講話

事項	項目	日	數	人員	開催月日	開催場所
漆器講習	一	一	日	一五	大正六年八月	宇治山田市
	二	日	一〇	全		
第二 實地指導	桑名	二	日	一五	大正六年八月	津市 桑名郡
	三重	日	全			
	鈴鹿	日	全			
	河藝	日	全			
	一志	日	全			
	飯南	日	全			
	多氣	日	全			
	度會	日	全			
	阿山	日	全			
	名賀	日	全			
津市	日	全				
宇治山田市計	日	全				

味	一	水	一	漆	一
墨汁	一	精米機用ロツプ塗料	一	酢	一
製造	五	晒粉香料	二	工業用鹽酸	一
醸造	一	人造眞珠塗料	三	石鹼製造	一
ダイナマイト	一	ペレンソス製造	一	水砂糖製造	一
セルロイドユフト	一	魚皮鞣法	一	耐水性木材接合劑	一
硝子鏡製造	一	ブリキニ鍍銅法	一		五
ガタベルチャ溶解	一				
黒文字油製造	一				

第五 漆器業指導

前年度ノ計畫ニ依リ木彫法ヲ應用セシメ更ニ意匠ヲ凝シテ一層販路ノ開拓ニ資セムコトヲ當業者ニ勸奨シソノ方法ヲ傳習シ且ツ材料ノ提供策ヲ講シタルハ不遠新面目ヲ呈スルノ時期ニ到達スベキヲ期セリ

第六 釀造業指導

清酒ニ就テハ酒母水種麴ノ鑑定及酒母水質等ニ適應スル釀造上ノ指導ヲナシ又實地ニ就キ機宜ノ指導

ヲ與ヘ以テ主ニ腐造防止ニ勉メタリ
 醬油ニ就テハ前年來引續キ種麴ノ製造ヲナシ本縣醬油同業組合ニ引渡シ當業者ニ配付使用セシメツ、
 アリ本年度製造高ハ五十六俵(六百七十二貫)ニシテ其他講話品評會等ニヨリ主トシテ製麴ノ改良ヲ奨勵シタル結果一般ニ製品ノ品質改善、成産歩留リノ増加ヲ見ルニ至レリ

第四章 品評會出品審査

本年度ニ於テ品評會競技會等ノ出品物審査ノ爲メ場員ヲ派遣シタルコト左表ノ如シ

開催年月	會名	開催地	派遣職員氏名
大正五年七月	飯南郡松阪町店頭裝飾競技會	松阪町	技師 有元 轍三郎 技術員 上地 逸太郎
大正五年七月	四日市萬古陶器品評會	四日市市	技師 有元 轍三郎 技手 野口 英 技術員 上地 逸太郎

大正五年十月	宇治山田市第五回製產品評會	宇治山田市	技師 大塚 久次郎 技師 有元 轍三郎 同 三上 虎太郎 同 小泉 爲三郎 同 竹井 幾右衛門
全年十一月	三重縣醬油同業組合品評會	津市	技師 小泉 爲三郎

大正六年六月十日印刷
 大正六年六月十三日發行

《非賣品》

三重縣工業試驗場

印刷者 三重縣津市榮町參拾六番屋敷 小寺庄三郎
 印刷所 三重縣津市榮町參拾六番屋敷 小寺活版所

14.2
4
357

終